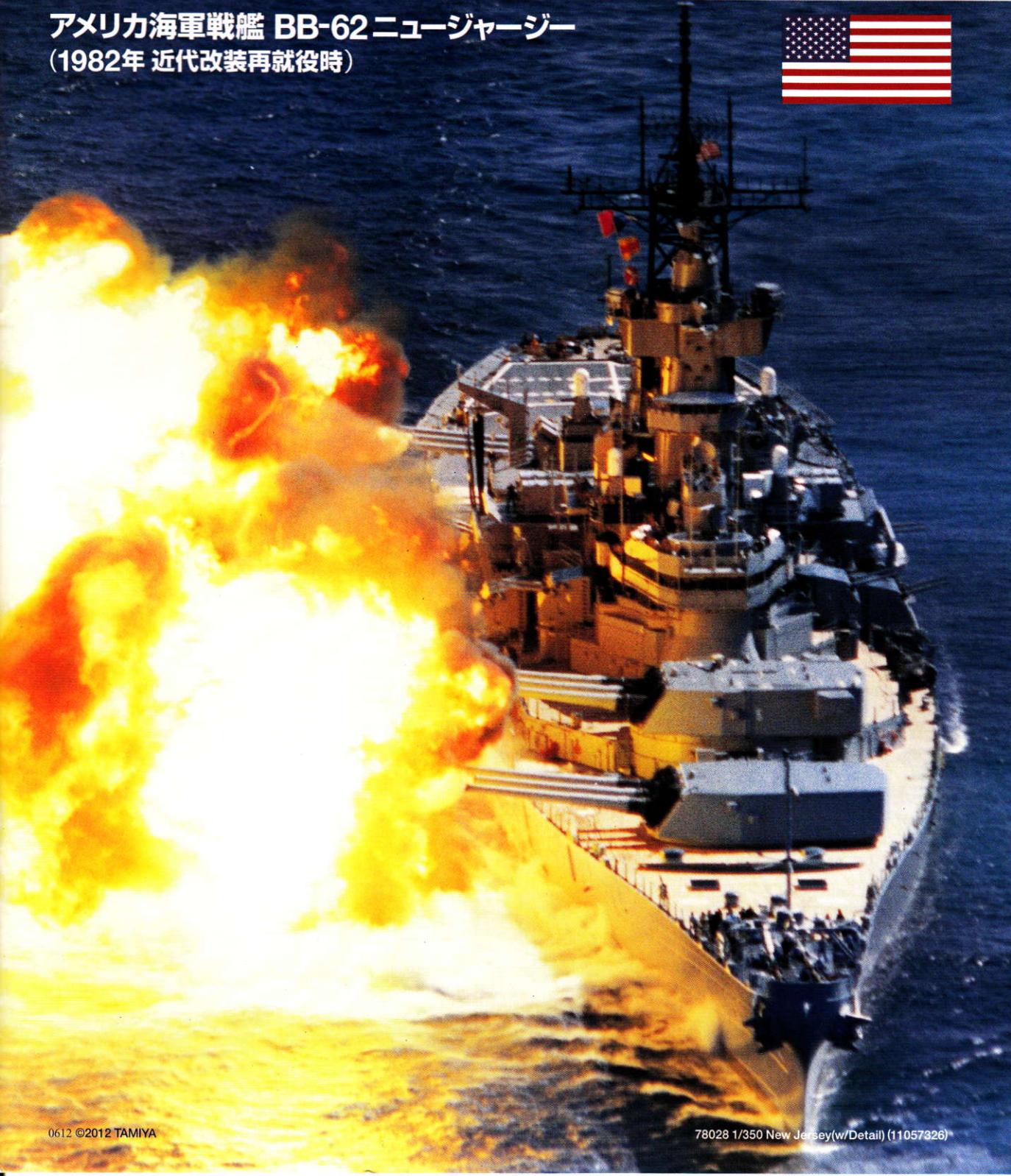


# U.S. BATTLESHIP BB-62 NEW JERSEY

アメリカ海軍戦艦 BB-62 ニュージャージー  
(1982年 近代改装再就役時)



世界の軍艦史上、かつて海上王と謳われた戦艦が、最後まで現役にとどまっていたのはアメリカ海軍である。軍艦に興味を抱いている向きに対しては改めて説明の要もないと思うが、それが4隻から成るアイオワ級である。第2次大戦中に相次いで就役したこのクラスは、アイオワ、ニュージャージー、ウィスコンシン、ミズーリの順に竣工し、全艦無事終戦を迎えたあと、ミズーリを除く3隻は一旦予備役に編入されたが、1950年の朝鮮戦争勃発に伴って全艦現役に復帰し、朝鮮の陸上各地に艦砲射撃を行なった。

1953年、朝鮮戦争の休戦協定が成立したあとは、4隻とも予備役に編入されたが、1964年、アメリカがベトナム戦争に介入する事態になると、そのうちのニュージャージーだけが現役に復帰し、1968年、ベトナム沖に進出して、陸上砲撃に従事した。しかしその期間は長くなく、翌69年には再び予備役に編入されてしまった。この時点で、戦艦の歴史に幕が下ろされたと誰もが思ったが、その後の事態は意表を突く展開を見せた。米ソ冷戦たけなわの折から、レーガン大統領が、軍事的にソ連を圧倒すべく、1981年、いわゆる600隻艦隊構想を打ち出し、その一環として本級4隻の現役復帰と大規模な近代化改装が実施されることになったのである。4隻は順次改装工事を終えて1982~88年に就役し、そのうちの2隻、ウィスコンシンとミズーリは湾岸戦争に参加して、改装によって新たに装備されたトマホーク巡航ミサイルによる対地攻撃を行なったが、冷戦の終結に伴って、その存在意義は薄れたため、1995年1月、4隻とも揃って退役した。

注目すべきは、退役後も4隻すべてが解体されることなく保存され、現在各地で記念艦として、その雄姿を一般に公開している点である。その詳細については、エピローグで触れることにする。



●1943年5月23日、フィラデルフィア海軍工廠で就役式を行うニュージャージー。

●Photo shows the New Jersey during her commissioning ceremony at the Philadelphia Naval Shipyards on May 23, 1943.



●太平洋戦争中の1944年11月8日、荒天を衝いてフィリピン沖を航行中のニュージャージー。背景の空母はエセックス級のハンコックである。

●Photo shows the New Jersey underway in rough conditions in the Philippine Sea on November 8, 1944. The Essex-class aircraft carrier USS Hancock is in the background.



●朝鮮戦争中の1951年10月20日、元山北方の興南市街を砲撃中のニュージャージー。  
●Photo shows the New Jersey during her bombardment of Hungnam on October 20, 1951.

### ■ベトナム戦争時までのニュージャージー

本艦はアイオワ級の2番艦として1943年5月23日に竣工し、翌年1月、クエゼリンやメジュロの攻略戦に参加したのを皮切りに、マーシャル、マリアナ、パラオ、フィリピン、硫黄島、沖縄と戦い続け、終戦直前には日本本土に対する砲撃も行なっている。就役当時の主要目は次の如くであった。

基準排水量	48,500トン
全長	270.4メートル
幅	33.0メートル
満載吃水	11.0メートル
主機	蒸気タービン4基、4軸
出力	212,000馬力
速力	33ノット
航続力	15ノットで15,000浬
主要兵装	40.6センチ50口径砲9門 12.7センチ38口径両用砲20門
乗員数	1,921名（計画値）

これらの数値で分かるように、本艦の全長は日本の大和を上回っており、戦艦史上もっとも長大な艦であった。逆に船体幅は大和はもちろんドイツのビスマルクよりも狭い。これはパナマ運河を通航できるように、その閘門の幅以内に収められたためで、戦艦としては異常に細長い船型となり、そのため動搖性能はよくなかったといわれる。しかし戦艦としてはその細長い船型に大和をはるかに凌駕する

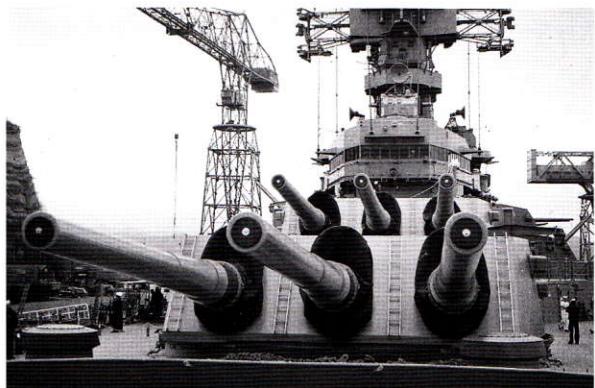
212,000馬力の主機を搭載したため、速力は優に33ノットを発揮することができ、大和より6ノット以上の高速艦であった。そのため高速空母機動部隊と楽に行動を共にすることが可能で、空母の直衛艦としてその威力を存分に発揮することができた。

朝鮮戦争の勃発によって1950年に再就役し、朝鮮沿岸各地の砲台や鉄道、橋、トンネルなどの砲撃に活躍したが、57年に再び予備役に編入された。ちなみに本艦は第2次大戦ではまったく被害を受けなかったが、朝鮮戦争では元山を砲撃中、地上砲火の反撃を受け、命中弾を喫して1名が戦死し、2名が重傷を負っている。これが本艦がその生涯に被った唯一の被害であった。

朝鮮戦争後、10年以上予備役にあった本艦が再度現役に復帰したのは前記のように1968年である。ベトナム戦争への介入に伴い、その40.6センチ主砲で、ベトナム沿岸部の奥深く砲撃を加えようという意図のもとに、同型4隻の中からもっとも整備状態のよかった本艦が選ばれたのである。再就役にあたっては電子機器の更新や本格的なヘリコプター発着甲板の新設など、かなり大がかりな近代化改装が実施され、同年9月から翌年3月まで、ベトナム沖で陸上砲撃に従事した。この間発射された主砲弾は5,688発で、12.7センチ両用砲も約15,000発がベトナム陣地に浴びせられたといわれる。しかしその運用に要する膨大な経費に比して、その効果が疑問視され、当初の予定より短期間でベトナム水域を後にして母港ロングビーチに帰投し、1969年12月、またまた予備役に編入されて、プレマートンに係留された。

この間、筆者は横須賀に寄港した本艦を訪れて、艦上だけでなく艦内もかなりじっくりと見て回る機会に恵まれたので、その折の思い出を少しく述べてみよう。思えばもう40年以上昔のことである。

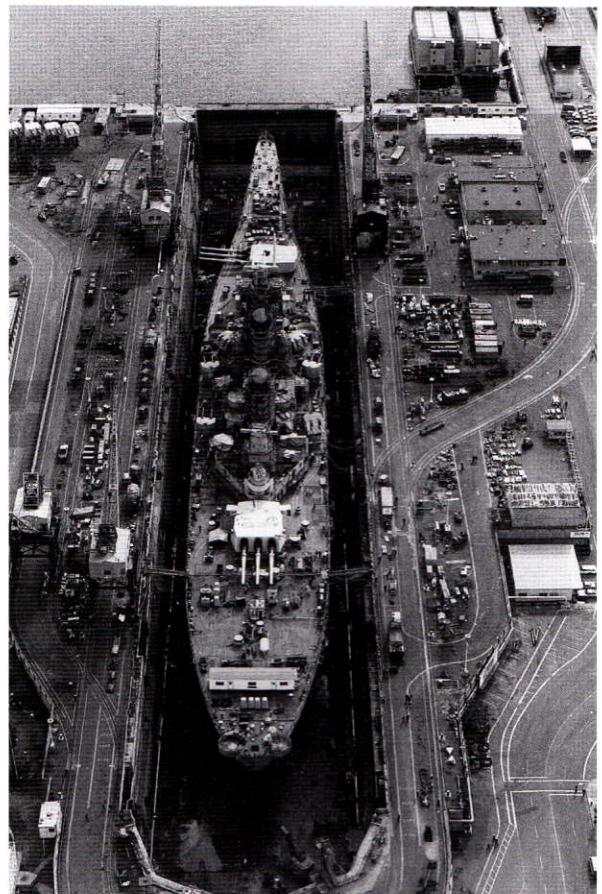
1969年1月25日から2月5日まで本艦は横須賀に入港し、米海軍横須賀基地の6号ドックに入渠したが、私が同艦を仔細に見て回ったのは2月3日のことであった。一見した時、それまで超大型空母のキティ・ホークやコンステレーションなどを見てきた目には、特に巨大な艦という印象は受けなかった。しかし砲熒兵器を主体とするその艦容は、いかにも「これが軍艦だ!」という感じで、特に前部に背負式に配置された40.6センチ3連装砲塔2基のたたずまいは、まことに迫力に満ちていた。司令塔の厚さ44.5センチの分厚いアーマー、主砲塔前面の厚さ43.2センチのアーマープレートなど、特に深く印象に残ったが、次いで艦長室など艦内を見て歩くと、意外にも簡素な造りで、燃えやすい木材類を一切使用しておらず、華美な装飾も施されていないで、このあたりにもダメージ・コントロールの概念が徹底しているのに感心させられた。



●1969年2月3日、横須賀に入港中のニュージャージー1、2番三連主砲塔。  
●The New Jersey's No.1 and No.2 main gun turrets as seen on February 3, 1969 during her visit to Yokosuka.

#### ■ベトナム戦争以後の動向

1955年にミズーリが予備役に編入され、続いて1958年、アイオワとウィスコンシンも相次いで予備役となり、唯一現役に復帰してベトナム戦争に参加したニュージャージーも、その前年予備役に編入されていて、これで戦艦の時代は終ったかと思われたが、先に述べたように、レーガン大統領の600隻構想に基づいて、長くモスボール状態で係留されたまま、ほとんど世間から忘れ去られていたアイオワ級4隻の全艦に、またまた第一線で登場する機会が訪れた。再就役にあたっては時代に適合した大規模な近代化工事が実施されたが、その先頭を切ったのがニュージャージーであった。同艦は1981年7月27日、艦隊曳船2隻に引かれて12年の長きにわたって係留されていたプレマートンを後に



●1982年3月13日、ロングビーチ海軍工廠の乾ドック内で改装工事中のニュージャージー。  
●The New Jersey as she appeared in dry dock on March 13, 1982 during a refit at the Long Beach Naval Shipyards.

し、太平洋岸沿いに改装工事の行なわれるロングビーチ海軍工廠に向かった。8月6日、無事ロングビーチ海軍工廠に到着した本艦は、ただちにドック入りしてモスボールの解撤を行ない、10月1日から約1カ年に及ぶ改装工事に着手された。ちなみにこの工事には1981、82会計年度の補正予算で合計31億2,600万ドルが投入されている。

この改装工事の要点は、対地攻撃を主眼とした射程の長いトマホーク巡航ミサイルの装備と、ハープーン対艦ミサイルの搭載であった。いわゆるミサイル戦艦の登場である。

トマホークは中央部および後部の12.7センチ連装両用砲4基を撤去し、その後に装甲付き箱型の発射機を計8基設置した。ミサイルの格納を兼ねたこの発射機は、常時は甲板上に平らに置かれ、発射時に仰角をかけられる。その内部にはそれぞれ4基のトマホークが収められ、その合計は32発であった。

ハープーンは4連装発射機を後部煙突両側にそれぞれ2基ずつ、中心線に対して直角に装備された。この発射機も格納兼発射筒を4本束ねたものだが、トマホーク発射機と違って、外舷に向けて固定仰角を付けて配置された。

したがってミサイルの合計は16発である。

近接対空装備としてはガトリング・ガン方式の20ミリCIWSが艦橋構造物側部と後部煙突直前の甲板上両舷にそれぞれ1基、計4基装備された。銃身数6の完全自動迎撃機銃である。

3番主砲塔付近のヘリコプターの発着に支障のない場所には新たに3機のヘリコプター係止装置が設けられた。

電子機器、通信設備も全面的に更新され、外部から見える主な変化としては、前檣上のSPS-6対空レーダーのSPS-49への換装、檣樓上部側面の電子戦装置のSLQ-32ESMへの換装があり、また対艦ミサイル欺瞞用のチャフ発射機4基も新たに装備された。これらに伴って前檣はそれまでの棒檣から四脚に強化され、後檣は撤去された。

トマホーク、ハープーンなどの新装備に伴い、射撃指揮装置などを収容して指揮官が指揮管制しうる戦闘区画CEC(Combat Engagement Center)が設置され、同時に居住区の改善、汚物処理能力の付与、照明の改善なども行ない、右舷後部寄りに洋上補給ステーションを新設した。



●1982年12月28日、レーガン大統領が臨席した再就役式におけるニュージャージー。

●President Ronald Reagan attended the New Jersey's recommissioning ceremony on December 28, 1982.

さて、これらの改装工事を終えたニュージャージーは、翌年9月25日、出動公試を開始し、12月28日再就役した。竣工以来実に4度目の現役艦としてのデビューである。おそらく軍艦史上、これだけ現役と予備役を繰り返した軍艦は、他に例がないのではなかろうか。少なくとも戦艦では、これに匹敵する事例は存在しない。

改装成ったニュージャージーは、1983年、ロングビーチを出港して太平洋を横断し、フィリピンのマニラに入港したあと、米タイ合同演習に参加し、次いでニカラグア封鎖作戦で示威行動を行なったあと、ナマ運河を通て大西洋に進出し、レバノン紛争に臨んで地中海のペイルート沖を遊弋し、同年12月24日、レバノンの陣地に対して最初の砲撃を行なった。さらに翌年2月、シリアにも同様の艦砲射撃を実施したが、これがニュージャージーが行なった最後の戦闘行為であった。1984年4月、フランスのニースを経て本国に帰投した同艦に、さらに戦闘の機会は与えられなかった。

こうして1991年2月8日、予備役に編入され、長らくまた係留状態にあったが、1995年1月4日、僚艦3隻と一緒に除籍された。しかし1998年、本艦だけ予備役艦籍に再入籍し、1999年に至ってようやく最終的に除籍された。波乱に富んだその長い歴史に幕を閉じたのである。

しかし本艦は今なお現存している。除籍後、本艦は建造地のニュージャージー州カムデンにあるホームポート・ライアンスに寄贈され、同ライアンスの手で整備の上、デラウェア河畔のカムデン埠頭に、浮かぶ博物館として2001年10月にオープンして、その雄姿を今にとどめているのである。

#### ■エピローグ

ニュージャージーの現況については上に述べたが、他の3隻の姉妹艦も、すべてなお現存しており、アイオワはロサンゼルスに、ミズーリは真珠湾に、ウィスコンシンはノーフォークに、それぞれ記念艦として保存されている。アメリカの去りゆく艦船に対する愛着の念は非常に根強いものがあり、ちょっと念頭に浮かぶだけでも、戦艦では他にテキサス、ノース・カロライナ、マサチューセッツ、アラバマが保存されており、有名なエセックス級空母も、なお3隻が保存状態にある。駆逐艦、潜水艦に至っては、その数はかなりの隻数に達する。この点、わが国は海洋国であるにもかかわらず海事遺産に対する関心と評価が極めて低く、戦後多数建造された護衛艦のうち、長い現役生活を終えたあと、記念艦として今も残されている艦は一隻もない。まことに淋しいことであり、考えさせされることである。

■ここまで解説：「世界の艦船」 石渡幸二  
1927年千葉県生まれ、東京商科大学(一橋大学)卒業、  
1957年月刊誌「世界の艦船」創刊。



●ベトナム作戦を終えて1969年6月24日、サンフランシスコに帰投したニュージャージー。

●Photo shows the New Jersey upon her return to San Francisco on June 24, 1969 following her tour of duty in Vietnam.

### ■Prologue

For much of the history of naval warfare, the battleship ruled the high seas. The last navy to have them in their arsenal was the U.S. Navy, which had maintained the four ships of the Iowa-class. Commissioned during WWII, the Iowa, New Jersey, Wisconsin, and Missouri survived the war but all except the Missouri were placed in reserve shortly after. However, the Korean War brought all four ships back into active duty and they were tasked with bombarding targets along the coast of the Korean peninsula.

Following the Korean War armistice in 1953, all four Iowa-class ships were sent back into the reserves, but New Jersey was recommissioned as the United States found itself fighting the Vietnam War in 1964. New Jersey provided fire support off the coast of Vietnam in 1968, but this period of action was short-lived as she was once again decommissioned in 1969. The story of the battleship appeared to be over at that point, but events then took an unexpected turn. During the height of the Cold War, U.S. president Ronald Reagan declared his plan to create a “600-ship Navy” in 1981. Part of this plan called for the recommissioning and modernization of the four Iowa-class battleships. This was accomplished from 1982 to 1988, and two of the ships, Wisconsin and Missouri, subsequently fired their new missile weaponry in anger during the 1991 Gulf War. However, with the end of the Cold War, the existence of battleships became difficult to justify and all four were finally retired in January 1995.

### ■From WWII to the Vietnam War

New Jersey was the second ship of the Iowa-class and was completed on May 23, 1943. In January of the following year, she saw combat for the first time during U.S. attacks on Kwajalein and Majuro. She then took part in operations against the Marshall Islands, the Marianas, Palau, the Philippines, Iwo Jima, and

Okinawa, as well as bombarded the Japanese home islands just prior to the end of the war. Her specifications at the time of her commissioning were as follows:

Standard Displacement:	48,500 tons
Length:	270.4m
Beam:	33.0m
Draft:	11.0m
Propulsion:	4 steam turbines, 4 screws
Output:	212,000hp
Maximum Speed:	33 knots
Range:	15,000 nautical miles (at 15 knots)
Armament:	40.6cm 50-caliber gun x9 12.7cm 38-caliber DP gun x20
Crew:	1,921

The Iowa-class ships were thus longer than the Japanese battleship Yamato, and they were in fact the longest battleships ever built. On the other hand, their beam dimensions were narrower than that of the Yamato or even the German Bismarck. This long, slim hull design was necessary in order to pass through the Panama Canal, but it also gave them a high speed which allowed them to provide close escort for the U.S. Navy's fast aircraft carrier forces.

New Jersey was recommissioned in 1950 to serve in the Korean War, where she bombarded targets such as artillery emplacements, rail lines, bridges, and tunnels. She also suffered the only damage from enemy action in her entire career during this period, when she was hit by coastal batteries at Wonsan. At the end of the conflict, she was once again placed in reserve in 1957, where she sat idle for the next ten years. Her inactive life was interrupted again in 1968, when the U.S. military thought to utilize the 40.6cm guns of battleships in the Vietnam War, so the New Jersey was selected for recommissioning. She was refitted with upgraded

electronics and a proper flight deck to enable helicopter operations. From September 1968 to March 1969, she bombarded targets along the coast of Vietnam and in the process expended 5,688 40.6cm gun rounds and approximately 15,000 12.7cm gun rounds. However, her combat effectiveness was called into question, and in light of the massive costs required to operate her, New Jersey soon returned to her home port of Long Beach before being placed back into the reserves at Bremerton in December 1969.

During the period above, I had the opportunity to see the New Jersey when she called into Yokosuka from January 25 to February 5, 1969. I had previously seen such supercarriers as the USS Kitty Hawk and USS Constellation, so at first glance the New Jersey did not strike me as being such a large ship. However, her armament, in particular the forward main gun turrets, left a deep impression. I also had the opportunity to see the captain's quarters and other areas inside the ship and noted the practical construction. This, as well as the lack of any decorative appointments, allowed me to get a feel for the thorough consideration given to damage control.

#### ■Post-Vietnam War

When New Jersey rejoined her sisters in the reserve fleet following the Vietnam War, it appeared that the age of the battleship had drawn to a close. However, as previously mentioned, President Reagan's vision for a "600-ship Navy" meant that these four battleships, which had been mothballed and nearly forgotten, were once again called into the front lines. On July 27, 1981, New Jersey was towed from her reserve fleet berth at Bremerton and reached the Long Beach Naval Shipyards on August 6th. There, her mothballing was removed and her year-long modernization program began on October 1st.

This modernization transformed the Iowa-class into missile-carrying battleships through the addition of Tomahawk cruise missiles and Harpoon anti-ship missiles. Four of the twin 12.7cm gun turrets were removed in order to make way for eight armored box launchers, which held a total of thirty-two Tomahawks. Two quadruple launchers were also fitted on either side of the aft funnel for a total of sixteen Harpoons. For close-range anti-air defense, four 20mm Phalanx Close-In Weapon Systems (CIWS) were added, one on either side of the bridge superstructure and on the deck just forward of the aft funnel. New Jersey also received new electronics and communications suites, with the most visible changes being an AN/SPS-49 radar on the foremast, AN/SLQ-32 ESM on the upper mast, and four anti-missile chaff launchers. In conjunction with these enhancements, the foremast was changed to a four-legged type while the aft mast was deleted altogether. Along with these new systems came internal modifications such as the installation of a Combat Engagement Center (CEC) and improvements to crew quarters. A new aft



●1982年9月、改装工事成って公試に出動したニュージャージ。

●The New Jersey during her shakedown cruise in September 1982 after her refit was completed.

deck to accommodate three helicopters and a starboard-side underway replenishment station were installed as well.

Work was completed on September 25th and New Jersey re-entered frontline service for an unprecedented fourth time on December 28th. In 1983, New Jersey took part in joint naval exercises with Thai forces and participated in the blockade of Nicaragua before passing through the Panama Canal to arrive off the coast of Lebanon, which was then in the midst of a civil war. While on station there, she bombarded positions in Lebanon on December 24th as well as Syrian positions in February of the following year. These were her final combat actions as New Jersey returned to the U.S. in April 1984. She was placed back into reserve on February 8, 1991 before being removed from the Naval Vessel Register on January 4, 1995 along with her three sister ships. Interestingly, she was re-listed in the reserves once more in 1998 before being removed for the final time in 1999. New Jersey was then entrusted to the Home Port Alliance of Camden, New Jersey, where the ship was originally constructed. This organization prepared the ship for her final role as a floating museum, and she opened to the public as the Battleship New Jersey Museum and Memorial in October 2001.

#### ■Epilogue

It is also worth noting that the New Jersey's sister ships are also still in existence. The Iowa, Missouri, and Wisconsin have become floating memorials at Los Angeles, Pearl Harbor, and Norfolk respectively. Furthermore, other battleship memorials exist in Texas, North Carolina, Massachusetts, and Alabama, while three Essex-class aircraft carriers as well as numerous destroyers and submarines have also been preserved. This is a testament to America's deep-rooted love of ships and the American people's efforts to preserve their naval heritage. In contrast, despite the many ships which have been built for the Japanese Maritime Self Defense Forces, not a single one has been preserved as a memorial. In this sense perhaps Japan still has much to learn.

Original Japanese text by Mr. Koji Ishiwata



●1983年5月10日、トマホーク巡航ミサイルの艦上発射テストを行うニュージャージー。  
●Photo shows the test-firing of a Tomahawk cruise missile on May 10, 1983.

### ■Prolog

Lange Zeit regierten die Schlachtschiffe die Meere in der Seekriegsführung. Die letzte Marine die sie in der Nutzung behielt war die US Marine welche lange Zeit die vier Schiffe der Iowa Klasse behalten hatte. Auf Kiel gelegt im zweiten Weltkrieg überlebten die Iowa, die New Jersey, die Wisconsin und die Missouri den Krieg aber alle mit Ausnahme der Missouri wurden kurz darauf in die Reserve versetzt. Wie auch immer der Korea Krieg brachte alle vier Schiffe in den aktiven Dienst zurück und sie wurden beauftragt Ziele entlang der Küste der koreanischen Halbinsel zu beschießen.

Nach dem Waffenstillstand im Koreakrieg im Jahr 1953 wurden alle vier Schiffe der Iowa Klasse in die Reserve versetzt aber die New Jersey wurde wieder in Dienst gestellt als die Vereinigten Staaten in den Vietnamkrieg im Jahre 1964 eintraten. Die New Jersey erbrachte Feuerunterstützung vor der Küste von Vietnam im Jahr 1968 aber diese Aktion war von kurzer Dauer und sie wurde im Jahr 1969 erneut abgemustert. Zu diesem Zeitpunkt schien die Geschichte des Schlachtschiffs zu Ende zu sein aber die Dinge nahmen eine unerwartete Wendung. Am Höhepunkt des kalten Krieges erklärte der US Präsident Ronald Regan im Jahr 1981 seinen Plan eine Marine mit 600 Schiffen zu schaffen. Ein Teil dieses Plans sah die Wiederindienststellung und Modernisierung der vier Schlachtschiffe der Iowa Klasse vor. Das wurde durchgeführt in den Jahren 1982-1989 und zwei der Schiffe, die Wisconsin und die Missouri benutzten ihre neue Raketenbewaffnung im Kriegseinsatz während des Golfkrieges 1991. Wie auch immer, zum Ende des kalten Krieges war die Nutzung von Schlachtschiffen nicht mehr zu rechtfertigen und alle vier Schiffe wurden letztendlich

im Januar 1995 außer Dienst gestellt.

### ■Vom zweiten Weltkrieg zum Vietnamkrieg

Die New Jersey war das zweite Schiff der Iowa Klasse und wurde am 23. Mai 1943 fertiggestellt. Im Januar des darauffolgenden Jahres wurde sie das erste Mal während der Angriffe auf Kwajalein und Majuro eingesetzt. Sie nahm dann an den Operationen gegen die Marshall Inseln, die Marianen, Palau, die Philippinen, Iwojima und Okinawa teil und bekämpfte letztendlich Ziele auf der japanischen Hauptinsel kurz vor Ende des Krieges. Die technischen Daten zum Zeitpunkt ihrer Kiellegung waren wie folgt:

Verdrängung:	48,500 Tonnen
Länge:	270.4m
Breite:	33.0m
Tiefgang:	11.0m
Antrieb:	4 Dampfturbinen, 4 Schrauben
Leistung:	212,000hp
Höchstgeschwindigkeit:	33 Knoten
Reichweite:	15,000 Seemeilen (bei 15 Knoten)
Bewaffnung:	40.6cm 50-Kaliber Kanone x9 12.7cm 38-Kaliber Mehrzweckkanone x20
Crew:	1,921

Die Schiffe der Iowa Klasse waren länger als das japanische Schlachtschiff Yamato und waren daher die längsten Schlachtschiffe die jemals gebaut wurden. Andererseits war ihre Breite geringer als die der Yamato oder sogar die der deutschen Bismarck. Dieser lange und schmale Rumpf war notwendig um den Panamakanal durchfahren zu können und er verlieh den Schiffen auch eine hohe Geschwindigkeit die es erlaubte Begleitschutz für die schnellen

---

Flugzeugträger der US Marine zu fahren.

Die New Jersey wurde wieder in den Dienst gestellt um im Korea Krieg eingesetzt zu werden wo sie von See aus Ziele wie Artilleriestellungen, Eisenbahnlinien, Brücken und Tunnel bekämpfte. Dabei wurde sie auch das einzige Mal in ihrer Karriere vom Feind beschädigt als sie von Küstenbatterien bei Wonsan getroffen wurde. Zum Ende dieses Konflikts wurde sie im Jahr 1957 in die Reserve versetzt, wonach sie für die nächsten zehn Jahre inaktiv war. Diese Zeit ohne Aktion wurde im Jahr 1968 erneut unterbrochen als die US Marine daran dachte ihre 40,6cm Geschütze im Vietnamkrieg einzusetzen und so wurde die New Jersey für die Wiederinbetriebnahme ausgewählt. Sie wurde nachgerüstet mit fortschrittlicher Elektronik und einer Landeplattform für Hubschrauber. Vom September 1968 bis zum März 1969 beschoss sie Ziele entlang der vietnamesischen Küste und verbrauchte dabei 5688 Granaten der 40,6cm Geschütze und ungefähr 15000 Granaten der 12,7cm Kanonen. Trotzdem wurde ihre Effizienz in Frage gestellt und angesichts der erheblichen Kosten für ihre Nutzung wurde die New Jersey bald in ihren Heimathafen nach Long Beach zurückgerufen bevor sie 1969 in Bremerton erneut in die Reserve versetzt wurde.

In der vorgenannten Zeit hatte ich die Gelegenheit die New Jersey zu sehen als sie vom 25. Januar bis zum 05. Februar in Yokosuka anlegte. Ich hatte vorher bereits Superträger wie die USS Kitty Hawk und die USS Constellation gesehen, daher beeindruckte mich die schiere Größe des Schiffes nicht so erheblich. Wie auch immer hinterließ ihre Bewaffnung, vor allem die vorderen Geschütztürme einen tiefen Eindruck. Ich hatte die Gelegenheit die Kapitänskajüte und andere Bereiche im Schiff zu sehen und bemerkte die sinnvolle Konstruktion. Das und auch der Verzicht auf jegliches schmückende Beiwerk verstärkten bei mir den Glauben in die Möglichkeit einer effizienten Schadensbekämpfung.

#### ■Nach dem Vietnamkrieg

Als die New Jersey ihren Schwesterschiffen nach dem Vietnamkrieg in die Reserve folgte schien das Ende der Schlachtschiffe erreicht zu sein. Wie auch immer und wie bereits erwähnt bedeutete die Vision von Präsident Regan von einer Marine mit 600 Schiffen, dass diese bereits abgeschriebenen und nahezu vergessenen Schiffen wieder an die Front geholt wurden. Am 27. Juli 1981 wurde die New Jersey von ihrem Reserveliegeplatz in Bremerton zu den Marinewerften in Long Beach geschleppt wo sie am 06. August eintraf. Dort wurde ihre Konservierung entfernt und ihre einjährige Modernisierung begann am 01. Oktober.

Diese Modernisierung veränderte die Schlachtschiffe der Iowa Klasse zu Raketentragenden Schlachtschiffen in dem Tomahawk Cruise Missiles und Harpoon Antischiffsraketen eingebaut wurden. Vier der doppelten 12,7cm Kanonentürme wurden entfernt um Platz zu machen für acht Startcontainer welche eine Gesamtzahl von 32 Tomahawks aufnahmen. Zwei Vierfachstarter wurden eingebaut an beiden Seiten des hinteren Schornsteins um eine Zahl von 16

Harpoons aufzunehmen. Für die Luftnahverteidigung wurden vier 20mm Phalanx CIWS beigelegt und zwar auf beiden Seiten der Brücke und auf dem Deck vor dem hinteren Schornstein. Die New Jersey erhielt eine neue Elektronik- und Funkausrüstung wobei die sichtbaren Änderungen aus dem AN/SPS-49 Radar auf dem vorderen Mast, dem AN/SLQ-32 ESM auf dem oberen Mast und vier Doppelwerfern zur Raketenabwehr bestanden. In Verbindung mit diesen Verbesserungen wurde der vordere Mast zu einer Version mit vier Beinen umgebaut während der hintere Mast entfiel. Zusammen mit diesen neuen Systemen kamen interne Umbauten wie zum Beispiel der Einbau einer Gefechtszentrale (CEC) und Verbesserungen in den Mannschaftsräumen. Ein neues hinteres Deck wurde installiert um drei Hubschrauber aufzunehmen und eine Einrichtung zum Anschluss für die Betankung auf der Steuerbordseite kam hinzu.

Die Arbeiten wurden am 25. September abgeschlossen und die New Jersey trat am 28. Dezember für eine unbestimmt Zeit ihren Dienst an. Im Jahr 1983 nahm die New Jersey an Marineübungen mit der thailändischen Marine teil und war bei der Blockade von Nicaragua vertreten bevor sie durch den Panamakanal fuhr um an die Küste des Libanon zu fahren welcher sich damals in der Mitte des Bürgerkrieges befand. Als sie dort stationiert war beschoss sie am 24. Dezember Ziele im Libanon und syrische Ziele im Februar des folgenden Jahres. Das waren die letzten Kampfeinsätze der New Jersey welche im April 1984 in die Vereinigten Staaten zurückkehrte. Sie wurde am 08. Februar 1991 in die Reserve zurückversetzt bevor sie mit ihren drei Schwesterschiffen am 04. Januar 1995 auf dem Marineregister gelöscht wurde. Interessanterweise wurde sie 1998 wieder in die Reserveliste aufgenommen, aber 1999 zum letzten Mal entfernt. Die New Jersey wurde dann der Hafenbehörde von Camden, New Jersey überlassen wo das Schiff ursprünglich gebaut worden war. Diese Organisation präparierte das Schiff für seine letzte Rolle als schwimmendes Museum und das „Battleship New Jersey Museum und Memorial“ eröffnete im Oktober 2001.

#### ■Epilog

Es ist interessant zu erwähnen, dass die Schwesterschiffe der New Jersey alle drei noch bestehen. Die Iowa, Missouri und die Wisconsin wurden schwimmende Museen in Los Angeles, Pearl Harbor und Norfolk. Darüber hinaus existieren andere Schlachtschiffdenkmale in Texas, North Carolina, Massachusetts und Alabama während drei Flugzeugträger der Essex Klasse sowie eine große Anzahl an Zerstörern und Untersehbooten erhalten wurden. Dies zeigt die tiefgehende Liebe der Amerikaner für ihre Schiffe und deren Bemühungen ihre Marinegeschichte zu erhalten. Im Gegensatz dazu ungeachtet der großen Zahl an Schiffen die für die japanische Marine gebaut wurden wurde nicht ein einziges als Denkmal erhalten. In dieser Hinsicht hat Japan immer noch viel zu lernen.

Original Japanisch-Text : Hr. Koji Ishiwata

### ■Prologue

Longtemps durant l'histoire de la guerre navale, les cuirassés ont régné sur la haute mer. La dernière marine qui les a conservés dans son arsenal est l'U.S. Navy qui a maintenu en service jusqu'à la fin du 20<sup>ème</sup> siècle les quatre unités de la classe Iowa. Entrés en service pendant la 2<sup>ème</sup> G.M., les Iowa, New Jersey, Wisconsin, et Missouri survécurent au conflit mais tous, excepté le Missouri furent versés dans la réserve juste après. Cependant, la Guerre de Corée les ramena tous les quatre en service actif. Leur mission était de bombarder des cibles terrestres le long des côtes coréennes.

Après l'armistice de 1953, les quatre bâtiments classe Iowa furent remis en réserve, mais le New Jersey fut réactivé en 1964 alors que les Etats-Unis entraient dans la Guerre du Vietnam. Le New Jersey assura l'appui feu au large des côtes vietnamiennes en 1968, mais cette intervention fut de courte durée, le navire retournant à la réserve en 1969. L'histoire du navire était semble-t-il arrivée à son terme mais les événements en décidèrent autrement. Au plus haut de la Guerre Froide, le Président américain Ronald Reagan annonça en 1981 son plan de création d'une "Marine de 600 Navires". Une partie de ce plan consistait à réactiver et à moderniser les quatre cuirassés de la classe Iowa. Cela fut réalisé de 1982 à 1988 et deux des navires, les Wisconsin et Missouri, tirèrent des missiles dont ils étaient nouvellement dotés durant la Guerre du Golfe de 1991. Cependant, avec la fin de la Guerre Froide, le maintien en service de ces cuirassés n'était plus justifié et ils furent finalement retirés en janvier 1995.

### ■De la 2<sup>ème</sup> G.M. à la Guerre du Vietnam

Le New Jersey, second bâtiment de la classe Iowa, fut terminé le 23 mai 1943. En janvier de l'année suivante, il reçut son baptême du feu lors des attaques américaines sur

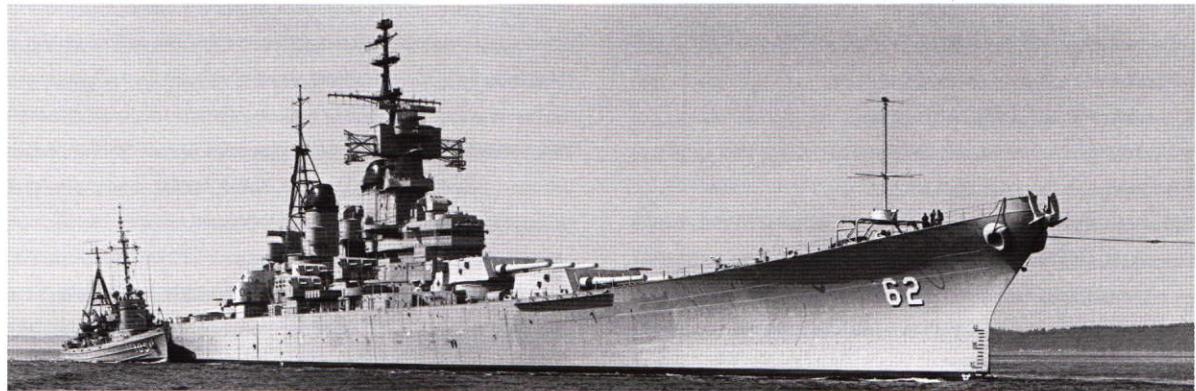
Kwajalein et Majura. Il prit part ensuite aux opérations dans les îles Marshall, les Mariannes, Palau, les Philippines, Iwo Jima et Okinawa puis bombarda l'archipel japonais juste avant la fin de la guerre. Au moment de son entrée en service, ces caractéristiques étaient les suivantes :

Déplacement standard:	48.500 tonnes
Longueur:	270,4m
Largeur:	33,0m
Tirant d'eau:	11,0m
Propulsion:	4 turbines à vapeur, 4 hélices
Puissance:	212.000cv
Vitesse maximale:	33 noeuds
Autonomie:	15.000 miles nautiques (à 15 noeuds)
Armement:	Canons de 40,6cm 50 calibres x9 Canons DP de 12,7cm 38calibres x20
Equipage:	1.921

Les bâtiments de la classe Iowa étaient donc plus longs que le cuirassé japonais Yamato, en fait les plus longs cuirassé jamais construits. Par contre, ils étaient plus étroits que le Yamato ou même le Bismarck allemand. Cette coque longue et effilée était nécessaire pour emprunter le Canal de Panama mais aussi atteindre une vitesse très élevée qui leur permettait d'assurer l'escorte des groupes aéronavals rapides de l'US Navy.

Le New Jersey fut réactivé en 1950 pour servir durant la Guerre de Corée au pilonnage des positions d'artillerie, des voies ferrées, des ponts et des tunnels. C'est lors de ce conflit qu'il subit ses seuls dommages du fait de l'ennemi, lorsqu'il fut atteint par des tirs de batteries côtières à Wonsan.

A la fin du conflit, il fut à nouveau placé en réserve en 1957 où il resta pendant les dix années suivantes. En 1968, l'U.S. Navy envisagea d'utiliser les canons de 40,6cm des cuirassés sur le théâtre d'opérations vietnamien et choisit de réamer le New



●1981年7月27日、現役復帰の大改装工事を行うため艦隊曳船に引かれてブルマートンを後にするニュージャージー。  
●Photo shows the New Jersey being towed from Bremerton on July 27, 1981 to receive her modernization.

Jersey. Il reçut des équipements électroniques améliorés et un pont permettant la mise en œuvre d'hélicoptères. De septembre 1968 à mars 1969, il bombardait des cibles le long des côtes vietnamiennes. Durant cette période, il tira 5.688 obus de 40,6cm et environ 15.000 obus de 12,7cm. Cependant, son efficacité fut remise en question, et en raison de ses coûts d'utilisation énormes, le New Jersey retourna rapidement à son port d'attache de Long Beach avant d'être remis en réserve à Bremerton en décembre 1969.

A cette époque, j'ai eu l'opportunité de voir le New Jersey alors qu'il faisait relâche à Yokosuka du 25 janvier au 5 février 1969. J'avais déjà eu l'occasion de voir les porte-avions géants USS Kitty Hawk et USS Constellation, aussi à première vue, le New Jersey ne m'apparut pas comme un si grand navire. Cependant, son armement, en particulier les tourelles principales avant me firent forte impression. J'ai eu également la possibilité de visiter les quartiers du commandant et d'autres parties de l'intérieur du bateau et j'ai remarqué sa conception très pratique. De plus, l'absence de tout élément décoratif renforçait l'aspect très fonctionnel et la considération apportée à la survivabilité du navire.

#### ■Après la Guerre du Vietnam

Lorsque le New Jersey rejoignit en réserve ses sisterships, il semblait que l'ère des cuirassés touchait à sa fin. Cependant, comme mentionné plus haut, la volonté de Président Reagan de constituer une "Marine de 600 Navires" entraîna le retour en première ligne de ces quatre cuirassés que presque tout le monde avait oubliés ... Le 27 juillet 1981, le New Jersey fut remorqué de son quai de Bremerton aux chantiers navals de Long Beach qu'il atteignit le 6 août. On lui retira son cocon et un chantier de modernisation d'un an commença le 1<sup>er</sup> octobre. Cette modernisation transforma la classe Iowa en cuirassés lance-missiles par l'intégration de missiles de croisière Tomahawk et de missiles anti-navires Harpoon. Quatre des tourelles doubles de 12,7cm furent supprimées et remplacées par huit caissons de lancement, pour un total de trente-deux Tomahawks. Deux lanceurs quadruples furent également installés de part et d'autre de la cheminée arrière pour un total de seize Harpoons. Pour la défense anti-aérienne rapprochée, quatre Close-In Weapon Systems (CIWS) Phalanx de 20mm furent ajoutés, un de part et d'autre de la passerelle de commandement et sur le pont juste devant la cheminée arrière. Le New Jersey reçut également de nouveaux équipements électroniques et de communication, les plus visibles étant un radar AN/SPS-49 sur le mât avant, un système AN/SLQ-32 ESM sur le mât supérieur et quatre lance-leurres anti-missiles. Conjointement à ces installations, le mât avant fut remplacé par un

nouveau quadripode et le mât arrière supprimé. Ces nouveaux équipements entraînèrent des modifications internes telles la création d'un Centre d'Engagement de Combat (CEC) et l'amélioration des quartiers de l'équipage. Un nouveau pont arrière capable d'accueillir trois hélicoptères et une plateforme de ravitaillement en mer située à tribord furent également aménagés.

Le travaux furent terminés le 25 septembre et le New Jersey reprit du service pour la quatrième fois le 28 décembre. En 1983, il prit part à des exercices communs avec les forces thaïlandaises et participa au blocus du Nicaragua avant de passer le Canal de Panama pour rejoindre la côte du Liban alors en proie à la guerre civile. Il bombardait des positions au Liban le 24 décembre et des positions syriennes en février suivant. Ce furent les dernières actions de combat du New Jersey qui retourna aux Etats-Unis en avril 1984. Il fut remis en réserve le 8 février 1991 avant d'être rayé du registre naval le 4 janvier 1995 en même temps que ses trois sisterships. Bizarrement, il fut à nouveau réintégré dans la réserve en 1998 avant d'en être radié pour la dernière fois en 1999. Le New Jersey fut ensuite remis à la Home Port Alliance de Camden, New Jersey où il avait été construit. Cette organisation transforma le navire en musée flottant qui a ouvert au public en octobre 2001 sous le nom de " Battleship New Jersey Museum and Memorial".

#### ■Epilogue

Il est intéressant de noter que les sisterships du New Jersey existent toujours, eux aussi. Les Iowa, Missouri, et Wisconsin sont devenus des musées flottants à Los Angeles, Pearl Harbor et Norfolk respectivement. De plus, d'autres mémoriaux de cuirassés existent au Texas, en Caroline du Nord, au Massachusetts et en Alabama, tandis que trois porte-avions classe Essex et de nombreux destroyers et sous-marins ont été préservés. C'est une preuve de l'affection profonde que porte l'Amérique à ses navires et des efforts de ce peuple pour préserver son héritage naval. En comparaison, bien qu'un grand nombre de navires ait été construit pour les Forces Maritimes d'Auto-Défense Japonaises, aucun n'a été préservé. A ce niveau, le Japon a encore beaucoup à apprendre.

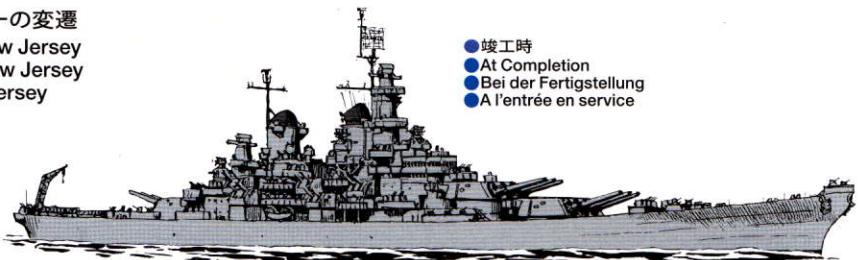
Texte original Japonais de Mr. Koji Ishiwata



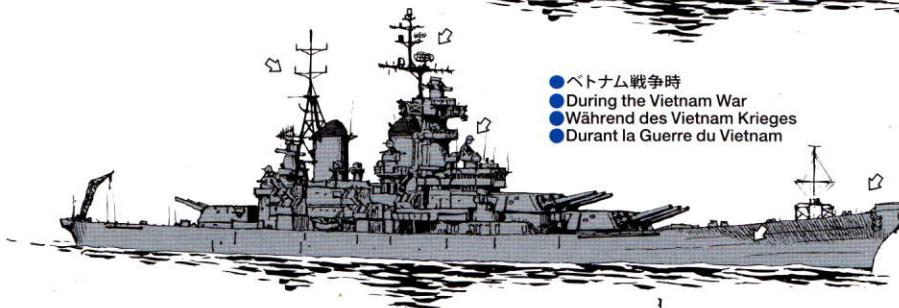
●1983年7月3日、フィリピンのマニラに向けて南支那海を航行中のニュージャージ。  
●Photo shows the New Jersey in the South China Sea while en route to Manila in the Philippines on July 3, 1983.

- アメリカ戦艦ニュージャージーの変遷
- Metamorphosis of the USS New Jersey
- Veränderungen an der USS New Jersey
- Métamorphose du USS New Jersey

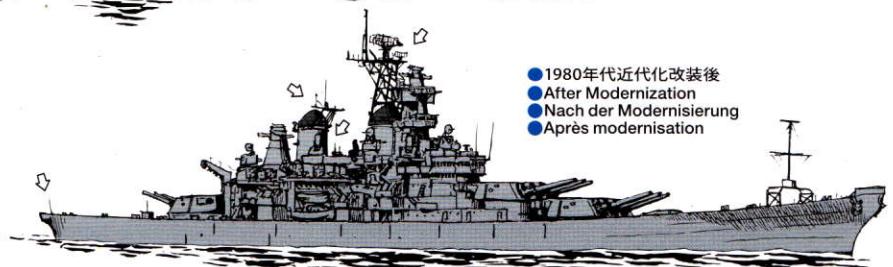
- 竣工時  
At Completion
- Bei der Fertigstellung
- A l'entrée en service



- ベトナム戦争時  
During the Vietnam War
- Während des Vietnam Krieges
- Durant la Guerre du Vietnam



- 1980年代近代化改装後  
After Modernization
- Nach der Modernisierung
- Après modernisation



#### ■ 4度の戦火を経たニュージャージー

アメリカ海軍史上最大の戦艦を目指して設計されたアイオワ級の2番艦として、1943年5月に就役したニュージャージー。太平洋戦争は言うまでもなく、1950年代の朝鮮戦争、1960年代のベトナム戦争、そして1980年代の二カラグア封鎖作戦と4度の戦いを経験し、時代に合わせてその姿を変えています。竣工時の武装は40.6センチ主砲9門、12.7センチ両用砲20門に加え、近接対空火器として40ミリ対空砲80門、20ミリ対空機銃約50挺を装備。大戦後半には火器の装備数は同じながら、射撃指揮装置が強化されました。その後、朝鮮戦争時には小規模な改装工事が施され、20ミリ機銃と艦尾のカタパルトを撤去しています。ベトナム戦争時には、後部甲板にヘリコプター用のマーキングが描かれ、40ミリ機銃はすべて撤去。艦首部に中短波通信のディスコーンアンテナ、前マスト上部にECM用アンテナが新設されました。そして1980年代の近代化改装により、主砲はそのままに、12.7センチ両用砲4基を撤去して、トマホークランチャー8基(計32発)、後部煙突の両脇にハープーンランチャーが2基ずつ横向きに4基(計16発)新設され、さらに艦尾のヘリコプター甲板を拡張。加えて対空/対ミサイル防御用のパレカン・フランクス20ミリ機銃4基、SLQ-32電波対抗装置2基、対艦ミサイル防御用のチャーフランチャー8基が設置され、ミサイル戦艦として生まれ変わったのです。

#### ■ A Veteran of Four Conflicts

Completed in May 1943 as the second ship of the Iowa-class, the USS New Jersey saw action during WWII, the Korean War in the 1950s, the Vietnam War in the 1960s, and the blockade of Nicaragua in the 1980s. As the times changed, so too did her appearance. At the time of her completion, New Jersey was armed with nine 40.6cm guns, twenty 12.7cm DP guns, as well as eighty 40mm and about fifty 20mm anti-aircraft guns. In a minor refit during the Korean War, her aircraft catapults and 20mm guns were removed. This was followed by the removal of the 40mm guns as well as the addition of a helicopter deck at the stern, a disconce-antenna at the bow, and ECM antennas on her forecastle during the Vietnam War. An extensive modernization in the 1980s led to the New Jersey's final transformation into a missile-carrying battleship. In this form she was equipped with a larger helicopter deck, two AN/SLQ-32 electronic warfare systems, eight anti-missile chaff launchers, four 20mm Phalanx CIWS for close-range air defense, Harpoon launchers on either side of her No.2 funnel (16 missiles total), as well as eight Tomahawk launchers (32 missiles total) that replaced four of her original 12.7cm DP gun turrets.

#### ■ Ein Veteran aus vier Kriegen

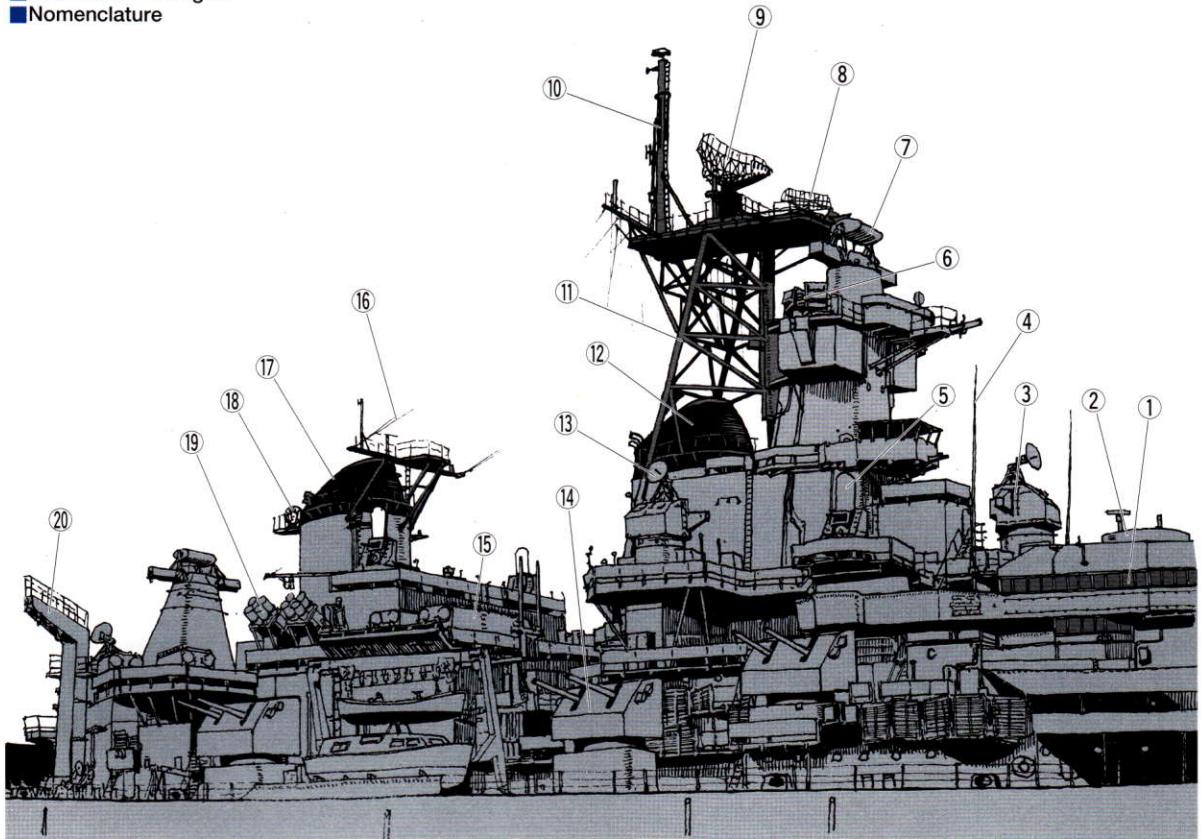
Die USS New Jersey als zweites Schiff der Iowa Klasse im Mai 1943 fertiggestellt war beteiligt am 2.Weltkrieg, am Koreakrieg in den 50er Jahren ,am Vietnamkrieg in den 60ern und bei der Blockade von Nicaragua in den 80ern. Mit der Zeit änderte sich auch ihr Erscheinungsbild. Zum Zeitpunkt ihrer Fertigstellung war die USS New Jersey bewaffnet mit neun 40,6cm Kanonen, 20 12,7cm Mehrzweckkanonen, sowie 80 40mm und etwa 50 20mm Flugabwehrkanonen. Bei einem kleineren Umbau während des Koreas Krieges wurden die Katapulte für die Flugzeuge und die 20mm Kanonen entfernt. Im Vietnam Krieg wurden die 40mm Kanonen entfernt und eine Hubschrauberplattform am Heck eingebaut. Zusätzlich kamen Antennen für elektronische Kampfführung und ein omnidirektionales Radar am vorderen Mast hinzu. Eine große Kampfwertsteigerung kam in den 80er Jahren und veränderte die USS New Jersey zu einem Schlachtschiff, welches Raketen trug. In diesem Bauzustand wurde das Hubschrauberdeck vergrößert und es kamen nachstehende Systeme hinzu : zwei AN/SLQ32 Systeme zur elektronischen Kampfführung, acht Düppel-Werfer zur Raketenabwehr, vier 20mm Phalanx CIWS Gatling Kanonen zur Nahbereichsabwehr, Harpoon Starter auf beiden Seiten des 2.Schornsteins ( insgesamt 16 Raketen ) und acht Thomahawk Starter ( insgesamt 32 Raketen ), welche die 12,7cm Mehrzweckkanonen ersetzten.

#### ■ Un Vétéran de Quatre Conflits

Terminé en 1943 comme second bâtiment de la classe Iowa, le USS New Jersey participa à la 2<sup>e</sup> G.M., la Guerre de Corée dans les années 1950, la Guerre du Vietnam dans les années 1960 et au blocus du Nicaragua dans les années 1980. Au fil des ans, son apparence a changé. Au moment de sa livraison, le New Jersey était armé de neuf canons de 40,6cm, vingt canons DP de 12,7cm ainsi que de quatre-vingt canons anti-aériens de 40mm et d'une cinquantaine de AA de 20mm. Lors d'une refonte mineure pendant la Guerre de Corée, ses catapultes pour avions et ses canons de 20mm furent supprimés. Cela se poursuit par la suppression des canons de 40mm et l'ajout d'une plateforme pour hélicoptères à la poupe, d'une antenne discone à la proue et d'antennes de CME sur le mât avant pendant la Guerre du Vietnam. Une modernisation intensive dans les années 1980 amena le New Jersey à sa configuration finale de cuirassé lance-missiles. Il était équipé d'une plateforme hélicoptères agrandie, de deux systèmes de guerre électronique AN/SLQ-32, huit lance-leurres anti-missiles, quatre systèmes de défense anti-aérienne rapprochée Phalanx de 20mm, de lanceurs de missiles Harpoon de part et d'autre de sa cheminée N°2 (16 missiles au total) ainsi que de huit lanceurs Tomahawk (32 missiles au total) qui remplaçaient quatre de ses tourelles DP de 12,7cm d'origine.

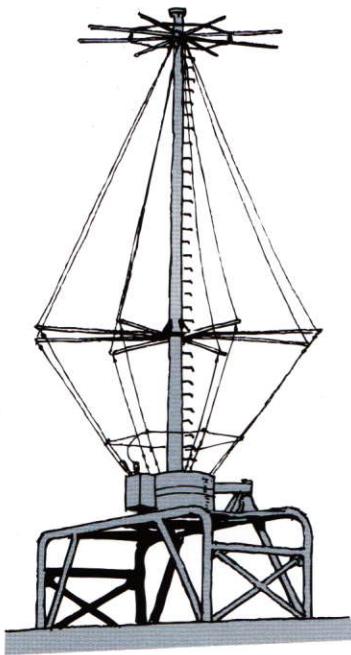
■ 戦艦ニュージャージー各部名称

- Nomenclature
- Teile-Bezeichnungen
- Nomenclature



- ① 航海艦橋 (ブリッジ)
- ② Mk.40 Mod.1 砲射撃指揮所
- ③ 5インチ砲用  
Mk.37 射撃指揮装置
- ④ ホイップアンテナ
- ⑤ CIWS (艦艇用近接防御システム)  
20mm機関砲ファランクス
- ⑥ SLQ-32(V)3  
電子制御支援装置
- ⑦ 主砲用 Mk.38 砲射撃指揮装置
- ⑧ SPS-10 水上搜索レーダー
- ⑨ SPS-49 対空レーダー
- ⑩ URN-25 航法援助装置
- ⑪ マスト
- ⑫ 第1煙突
- ⑬ SPG-25 パラボラアンテナ  
(下部は MK.37)
- ⑭ 5インチ砲
- ⑮ トマホーク巡航ミサイル
- ⑯ 空中線アンテナ
- ⑰ 第2煙突
- ⑱ OE-82C/WSC-1 衛星アンテナ
- ⑲ ハープーン対艦ミサイル
- ⑳ 洋上給油用ハイラインポスト

- ① Brücke
- ② Mk 40 Modell 1 Feuerleitsystem
- ③ MK 37 Zielzuweiser
- ④ Wurfantenne
- ⑤ Phalanx Nahbereichswaffe
- ⑥ AN/SLQ-32 Gerät für elektronische Kampfführung
- ⑦ MK 38 Feuerleitanlage
- ⑧ AN/SPS-10 Surface Bodensuchradar
- ⑨ AN/SPS-49 Luftraumüberwachungsradar
- ⑩ AN/URN-25 Taktisches Navigationssystem
- ⑪ Mast
- ⑫ Schornstein 1
- ⑬ MK-37 Zielzuweiser mit AN/SPG-25 Antenne
- ⑭ 5-Inch Kanone
- ⑮ RGM-109B Tomahawk Launcher
- ⑯ Antenne
- ⑰ No.2 Funnel
- ⑱ OE-82C/WSC-1 Satellite Communications Antenna
- ⑲ RGM-84 Harpoon Launcher
- ⑳ Highline Post
- ① Passerelle
- ② Système de contrôle de tir Mk.40 Mod.1
- ③ Pointeur Mk.37
- ④ Antenne fouet
- ⑤ CIWS (Close-In Weapon System) Plalanx
- ⑥ Système de guerre électronique AN/SLQ-32
- ⑦ Système de contrôle de tir Mk.38
- ⑧ AN/SPS-10 Surface Search Radar
- ⑨ AN/SPS-49 Air Search Radar
- ⑩ Radar de surface AN/SPS-10
- ⑪ Mât
- ⑫ Cheminée No.1
- ⑬ Pointeur Mk.37 avec antenne AN/SPG-25
- ⑭ Canon de 5 pouces
- ⑮ Lanceur RGM-109B Tomahawk
- ⑯ Antenne
- ⑰ Cheminée No.2
- ⑱ Antenne de communication satellite OE-82C/WSC-1
- ⑲ Lanceur RGM-84 Harpoon
- ⑳ Mât de câble d'antenne



■ディスコーンアンテナ

### ■ディスケージ・ディスコーンアンテナ

艦首にそびえ立つディスコーンアンテナはVHF～UHF帯まで幅広くカバーする全指向性アンテナ。通称「クリスマスツリー」と呼ばれ親しまれている。アンテナ部は頂点の8方向に広がった物が30MHz帯まで、その下の8本の空中線が12MHz帯までの周波数をカバーする構造になっている。

### ■Discone-Cage Antenna

This omnidirectional antenna was located at the bow and covered a wide frequency range from VHF to UHF bands. It was affectionately called the "Christmas Tree" and the upper radials covered up to 30MHz while the lower ones covered up to 12MHz.

### ■Radar Antenne

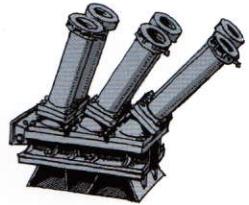
Diese Rundumantenne war am Bug angebracht und deckte einen weiten Frequenzbereich von VHF bis UHF ab. Sie wurde nach ihrer Form „Christbaum“ genannt und die oberen Elemente funktionierten bis zu 30 MHz, während die Unterer bis 12 MHz arbeiteten.

### ■Antenne Discone

Cette antenne omnidirectionnelle située à la proue couvre un vaste spectre de fréquence des bandes VHF à UHF. Elle était affectueusement surnommée "Arbre de Noël" et les branches supérieures couvraient jusqu'à 30MHz et les plus basses jusqu'à 12 MHz.

### ■SRBOC チャフロケットランチャー

ユナイテッド・ディフェンス社の開発した敵レーダー攪乱物発射装置。飛来する敵ミサイルの誘導装置や、敵レーダーを攪乱し目標を見失わせる働きがある。ニュージャージーには6連のMk.36発射機が第1煙突両サイドに4基ずつ配置されている。



### ■SRBOC (Super Rapid Bloom Offboard Chaff) Rocket Launcher

The SRBOC Rocket Launcher was developed by United Defense Industries as a means to confuse enemy radars and the guidance systems of incoming missiles. Four of these six-barreled Mk.36 launchers were fitted on either side of the New Jersey's No.1 funnel.

### ■SRBOC ( Super Rapid Bloom Offboard Chaff ) Raketenstarter

Der Starter wurde von der Amerikanischen Militärindustrie entwickelt um Radar und Lenksysteme einfliegender Raketen zu täuschen. Vier dieser sechsläufigen Starter waren auf beiden Seiten des Schornsteins 1 der New Jersey angebracht.

### ■Lance-roquettes SRBOC (Super Rapid Bloom Offboard Chaff)

Le lance-roquettes SRBOC a été développé par United Defense Industries pour leurrer les radars ennemis et le système de guidage des missiles ennemis dirigés sur le navire. Quatre de ces lanceurs à six tubes Mk.36 étaient installés de part et d'autre de la cheminée N°1 du New Jersey.



■SH-60B シーホーク

### ■SH-60B シーホーク

アメリカ軍などで幅広く使用されている汎用型ヘリコプター、H-60シリーズ。中でも、SH-60B シーホークは、駆逐艦やフリゲートなどの狭い飛行甲板や格納庫でも扱えるように、メインローターとテールコーンが折りたためるようになっている。対潜水艦作戦(ASW)、敵艦隊の探知、目標位置の捕捉などの任務を担い、武装は魚雷と対艦ミサイルを装備する。

### ■SH-60B Seahawk

The H-60 family of helicopters has been widely used by the militaries of the U.S. and other countries. The SH-60B Seahawk was designed to operate from destroyers and frigates and featured foldable main rotor blades and tail assembly. They could be tasked with missions such as Anti-Submarine Warfare (ASW), reconnaissance, and target spotting and could be armed with torpedoes or anti-ship missiles.

### ■SH-60B Seahawk

Die Familie der H-60 Heliopoter wurde häufig von den USA und anderen Nationen genutzt. Die SH-60B Seahawk wurde für die Nutzung auf Zerstörern und Fregatten entwickelt und besaß faltbare Haupt- und Heckrotorblätter. Sie konnte für die U-Bootabwehr (ASW), die Aufklärung und Zielbeobachtung eingesetzt werden und mit Torpedos und Anti-Schiffsraketen ausgestattet werden.

### ■SH-60B Seahawk

La famille d'hélicoptères H-60 est employée en très grands nombres par les forces armées des Etats-Unis et d'autres nations. Le SH-60B Seahawk, conçu pour opérer depuis des destroyers et frégates, est doté de pales de rotor et d'une queue repliables. Il peut effectuer des missions de lutte anti-sous-marin, de reconnaissance, de recherche de cibles et être armé de torpilles et de missiles anti-navires.

## ■CIWS(艦艇近接防御対空兵器)20mm機関砲 ファランクス

飛来した敵の航空機および、対艦ミサイルを迎撃する目的で開発された、近接防御兵器のCIWSは上部円頭部に対空レーダーを装備し、自動的に索敵迎撃が行えるシステムを備える。口径20mm6本の回転銃身を備えた機関砲で、毎分3,000発の発射速度を誇る。

### ■Phalanx CIWS (Close-In Weapon System)

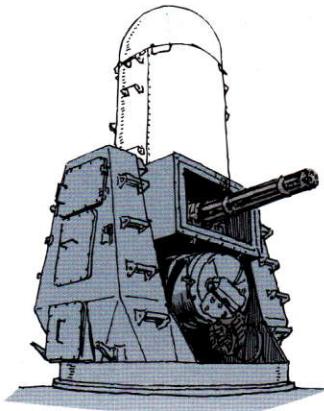
The Phalanx CIWS was developed to defend against aircraft or anti-ship missiles and its cylindrical upper section contained the radar and automatic targeting system. Its 20mm six barreled Gatling gun could fire at a rate of 3,000 rounds per minute.

### ■Phalanx CIWS (Nahbereichswaffe)

Die Phalanx Nahbereichswaffe wurde zur Verteidigung gegen Luftfahrzeuge und Raketen entwickelt. Ihr zylindrisches Oberteil enthält das Radar und die automatische Zielverfolgung. Die 20mm Waffe mit sechs rotierenden Läufen konnte 3.000 Schuss pro Minute abgeben.

### ■Phalanx CIWS (Close-In Weapon System)

Le dispositif Phalanx CIWS a été développé pour assurer la défense contre les avions et missiles anti-navires. Sa partie supérieure cylindrique renferme le radar et système automatique de visée. Son canon à six tubes Gatling peut tirer à 3.000 coups par minute.



■CIWS 20 mm機関砲 ファランクス

## ■ハープーン対艦ミサイル

ハープーンミサイルは、アメリカ合衆国のマクドネル・ダグラス社が開発した対艦ミサイルで射程は約340km。慣性誘導とアクティブラーダーホーミングにより誘導され敵艦を撃沈する。弾体はMK.141キャニスターに装填され、4本がひとまとめになって搭載されている。ちなみに"Harpoon"とは、捕鯨のモリのこと。海上自衛隊の護衛艦も含め、多くの西側諸国艦船に搭載されている。

### ■RGM-48 Harpoon Missile Launcher

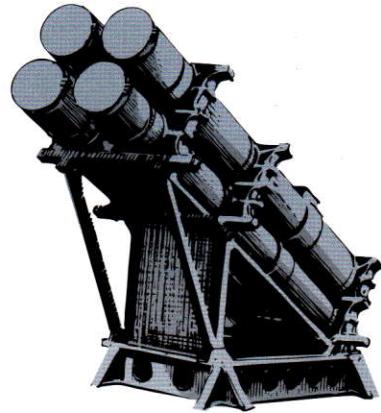
The Harpoon was developed by McDonnell Douglas as an anti-ship missile with active radar homing guidance and had a range of 340km. The missile was housed in Mk.141 canister launchers which could hold up to four missiles. It is widely used by Western Navies as well as the Japanese Maritime Self Defense Force.

### ■RGM-48 Harpoonstarter

Die Harpoon wurde von McDonnell Douglas als Anti-Schiffsrakete mit aktivem Radarsuchkopf entwickelt und hatte eine Reichweite von 340 km. Die Rakete wurde in einem Starter mit 4 Behältern verwendet. Sie wird häufig bei den westlichen Marinekräften genutzt; unter anderem auch bei der Japanischen Marine.

### ■Lance-missiles RGM-48 Harpoon

Le Harpoon, développé par McDonnell Douglas, est un missile anti-navire d'une portée de 340km avec guidage radar actif. Le missile est logé dans un caisson de lancement Mk.141 qui peut contenir jusqu'à quatre missiles. Il est en service dans les marines occidentales et japonaise.



■ハープーン対艦ミサイル

## ■トマホーク巡航ミサイル

艦船搭載型のトマホークにはTLAM対地攻撃型のBGM-109AとTASM対艦攻撃型のBGM-109Bの他にC、D型などがある。慣性誘導とアクティブラーダー、GPSなどを駆使して敵のレーダーが探知できない低空を蛇のように這いながら進入し、目標を攻撃。射程距離はBGM-109Aが2,500km、BGM-109Bが460kmとなっている。ニュージャージーには4発収納の発射機を2連としてMk.43発射機が4ヶ所配置された。

### ■BGM-109 Tomahawk Cruise Missile Launcher

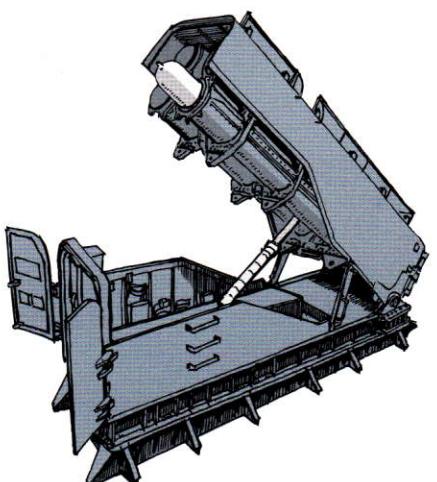
Aside from the BGM-109A Tomahawk Land Attack Missile (TLAM) and the BGM-109B Tomahawk Anti-Ship Missile (TASM), there are also C and D variants of this cruise missile. Guided by active radar and GPS, it flies low to avoid radar detection as it heads toward its target. The BGM-109A and BGM-109B have ranges of approximately 2,500km and 460km respectively. Two quadruple box launchers make up a Mk.43 launcher system and the New Jersey was equipped with four such systems.

### ■BGM-109 Starter für Tomahawk Cruise Missile

Neben der BGM-109A Tomahawk Version für Landziele (TLAM) und der BGM-109B Version für Schiffsziele (TASM) gab es auch C und D Versionen von dieser Cruise Missile. Durch einen aktiven Radarsuchkopf und Satellitennavigation gesteuert fliegt sie sehr tief auf das Ziel zu, um eine Entdeckung durch Radar zu vermeiden. Die BGM-109A und die BGM-109B haben eine Reichweite von 2.500km bzw 460km. Zwei vierfach Starter bilden ein MK 43 Startersystem und die New Jersey hatte vier dieser Systeme.

### ■Lance-missiles de croisière BGM-109 Tomahawk

En plus des BGM-109A Tomahawk (TLAM) d'attaque terrestre et BGM-109B Tomahawk (TASM) anti-navire, il existe aussi les versions C et D de ce missile de croisière. Guidé par radar actif et GPS, il vole très bas vers sa cible pour éviter d'être détecté par les radars ennemis. Les BGM-109A et BGM-109B ont une portée de 2.500km et 460km respectivement. Deux lanceurs quadruples constituent une batterie Mk.43. Le New Jersey était équipé de quatre de ces batteries.



■トマホーク巡航ミサイル

## 《主要目(1982年頃)》

基準排水量：45,000 t  
 満載排水量：57,353 t  
 全 長：270.5m  
 最大幅：32.95m  
 吃 水：11.6m  
 速 力：33 ノット  
 主 機：ウエスティングハウス蒸気タービン  
 出 力：212,000馬力  
 軸 数：4  
 ボイラー：565psi ×8  
 艦載機：LANPS Mk.3 SH-60Bシーホークヘリコプター×3  
 兵 装：16インチ主砲3連装×3基-9門  
     5インチ高角砲連装×6基-12門  
     トマホーク巡航ミサイル4連装×8基  
     ハープーン対艦ミサイル4連装×4基  
     CIWSファランクス20mm機関砲×4基

## 《Specifications》

<b>Standard Displacement:</b>	45,000 tons
<b>Fully-Loaded Displacement:</b>	57,353 tons
<b>Length:</b>	270.5m
<b>Beam:</b>	32.95m
<b>Draft:</b>	11.6m
<b>Maximum Speed:</b>	33 knots
<b>Propulsion:</b>	Westinghouse Steam Turbines
<b>Turbines Output:</b>	212,000hp
<b>Number of Screws:</b>	4
<b>Boilers:</b>	565psi Boiler x8
<b>Aircraft:</b>	LAMPS III SH-60B Seahawk Helicopter x3
<b>Armament:</b>	Triple 16-Inch Gun Turret x3 (9 Guns) Twin 5-Inch DP Gun Turret x6 (12 Guns) Quadruple Tomahawk Missile Launcher x8 Quadruple Harpoon Missile Launcher x4 Phalanx 20mm CIWS x4

■写真提供 世界の艦船

■解説 石渡 幸二

■イラスト 上田 信



TAMIYA, INC. 3-7 ONDAWARA, SURUGA-KU, SHIZUOKA 422-8610 JAPAN

株式会社タミヤ 〒422-8610 静岡市駿河区恩田原3-7 www.tamiya.com